

岩手県 地震・津波被害想定調査について  
(久慈市)

令和4年11月

岩手県



# はじめに

- 東日本大震災津波以前にもあらゆる津波対策をおこなっていましたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波は、当時の予測を大きく上回る規模の津波であり、死者及び行方不明者併せて6,254人（令和4年6月30日現在）もの犠牲が生じました。
- 東日本大震災津波を教訓に、県では、発生頻度は低いものの発生すれば甚大な被害が生じる東日本大震災クラスの津波に対しては、住民の避難を軸に、ソフト・ハードを総動員した「多重防御」の考え方のもと、「海岸保全施設」、「まちづくり」、「ソフト対策」を適切に組み合わせた多重防災型まちづくりにより安全の確保に努めてきました。
- また、国においても、東日本大震災津波を教訓に、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波に対する避難を軸に総合的な津波対策を検討していくこととしました。
- そのため、国では、日本海溝及び千島海溝沿いの海溝型地震の巨大モデルの浸水想定の検討を行い、検討結果を令和2年4月に公表する（本県分は9月に公表）とともに、令和4年3月に被害想定及び減災対策の検討結果を公表しました。
- 県においても、国が示した日本海溝・千島海溝モデルのほか複数のモデルを加えた本県最大クラスの津波浸水想定を令和4年3月に公表しました。

今回実施した被害想定調査は、この本県最大クラスの津波浸水の想定における被害を調査したものです。

# 目次

	ページ
1. はじめに	3
1.1 現在の津波対策の考え方	4
1.2 津波対策について(本県最大クラスの津波浸水想定公表)	5
2. 被害想定調査結果	6
2.1 被害想定調査	7
2.2 減災対策の基本的方向性及び課題	13
2.3 犠牲者ゼロを目指して	18
3. 地震・津波への備え	19
3.1 訓練に参加する	20
3.2 大きな揺れが発生したら直ぐに逃げる	21
3.3 津波警報・注意報	22
3.4 後発地震注意情報	24
4. おわりに	25

# 1. はじめに

---

# 1.1 現在の津波対策の考え方

- 東日本大震災津波以後の津波対策では、津波の規模を二つに分けて取り組む必要があります。
- 「津波浸水想定」・「被害想定」は、「最大クラスの津波」におけるソフト対策※の検討の基礎資料とするために実施しました。

※主なソフト対策：防災教育や避難訓練による避難意識の向上、地域コミュニティにおける住民同士が助け合える体制の強化、実践的な住民参加型の総合防災訓練の実施など。

## 最大クラスの津波（L2 津波）

（数百年から千年に一度程度の頻度で到達する津波）

### 津波レベル：発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波

住民等の生命を守ることを最優先とし、住民の避難を軸に、とりうる手段を尽くした総合的な津波対策を確立

基本的な考え方：被害の最小化を主眼とする「減災」の考え方に基づき、対策を講ずることが重要である。そのため、海岸保全施設等のハード対策によって津波による被害をできるだけ軽減するとともに、それを超える津波に対しては、ハザードマップの整備など、避難することを中心とするソフト対策を重視しなければならない。

← 今回の調査の対象

## 比較的頻度の高い津波（L1 津波）

（数十年から百数十年に一度程度の頻度で到達する津波）

### 津波レベル：発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波

住民財産の保護、地域経済の安定化、効率的な生産拠点の確保の観点から、海岸保全施設等を整備

基本的な考え方：海岸保全施設等については、引き続き、発生頻度の高い一定程度の津波高に対して整備を進めるとともに、設計対象の津波高を超えた場合でも、施設の効果粘り強く発揮できるような構造物の技術開発を進め、整備していく。

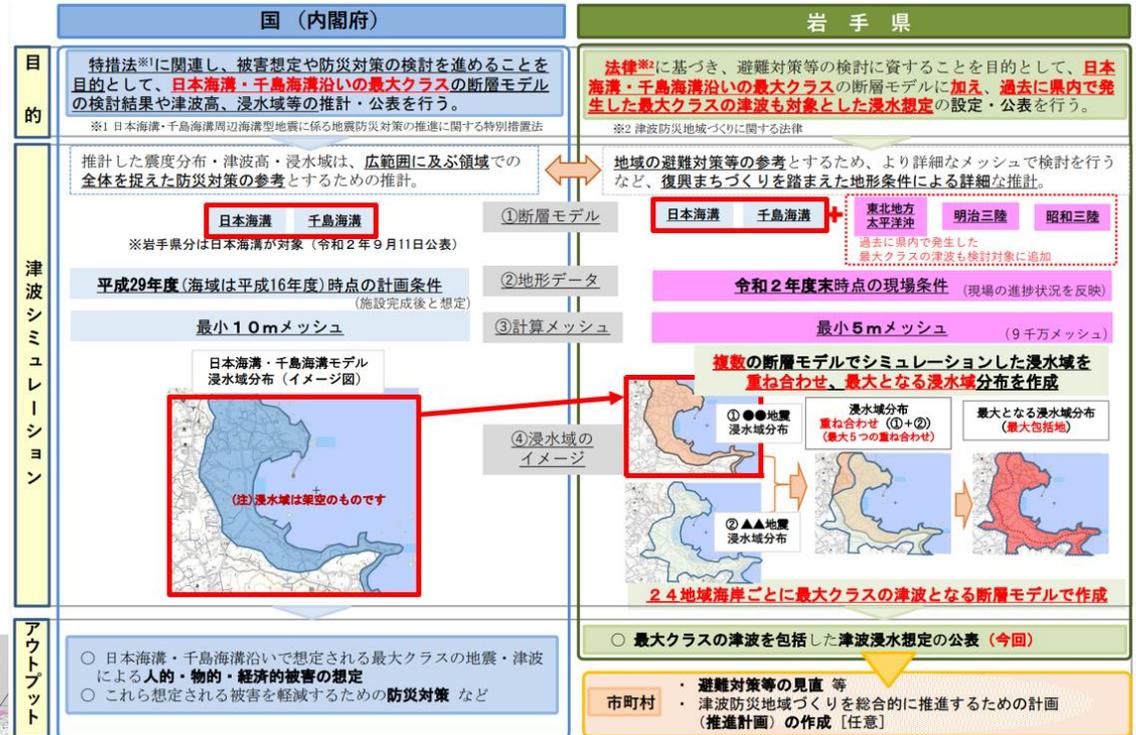
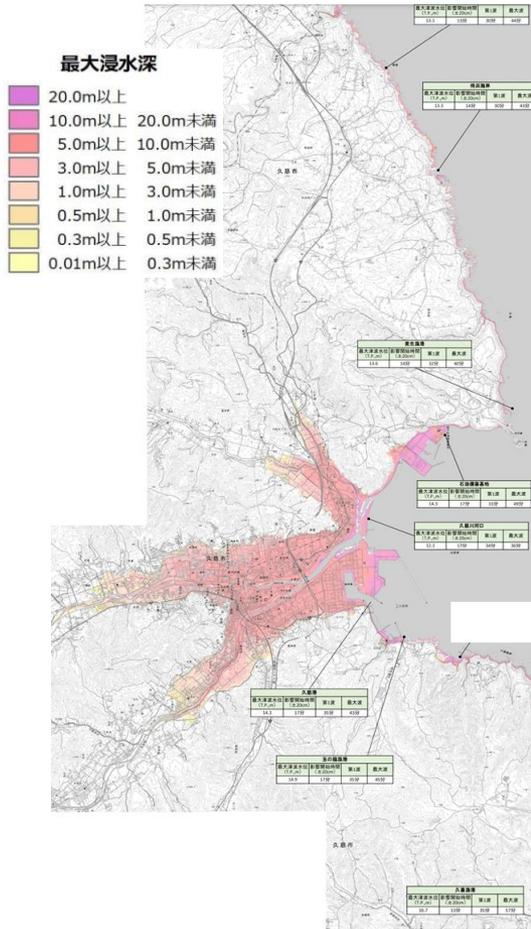
中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」報告(平成23年9月28日)より作成

※南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ 第2回会合(H24.5.28)「今後の海岸堤防等の整備について(国土交通省水管理・国土保全局海岸室)」資料に加筆

# 1.2 津波対策について(本県最大クラスの津波浸水想定の公表)

- 県は令和4年3月に津波浸水想定結果を公表しました。
- 今回の被害想定調査は、この津波浸水想定の結果の計算を行いました。

## 【参考】久慈市



## 2. 被害想定調査結果

## 2.1. 被害想定調査

- 日本海溝・千島海溝で発生する地震に伴う、津波及び地震動(揺れ)による被害想定を取りまとめたものです。
- M(マグニチュード)9クラスの地震を対象としました。
- 本調査は、過去の災害時のデータや仮定した条件を基にした推計です。現実の被害事象がこのとおりに生じるということを示すものではないということに注意する必要があります。

### 2.1.1 被害想定調査の目的

- ① 調査結果は、地域ごとの効果的な減災対策を検討するための基礎資料として活用するものです。
- ② 調査結果を基に、住民の防災教育の推進や防災意識の啓発に活用するなど、今後の本県の地震・津波対策に生かしていきます。

### 2.1.2 想定した地震発生の季節・時間

冬・深夜	多くの方が自宅で就寝中に被災するため、避難準備に時間を要するほか、夜間の暗闇や積雪等により避難速度が低下することが想定される時間帯です。
夏・昼12時頃	日中の社会活動が盛んな時間帯であり、多くの方が自宅以外の場所で被災することが想定される時間帯です。
冬・夕18時頃	住宅、飲食店などで火気使用が最も多く、地震火災の発生が多くなることが想定される時間帯。帰宅等により日中や夜間と比べて人口動態が異なる時間帯です。

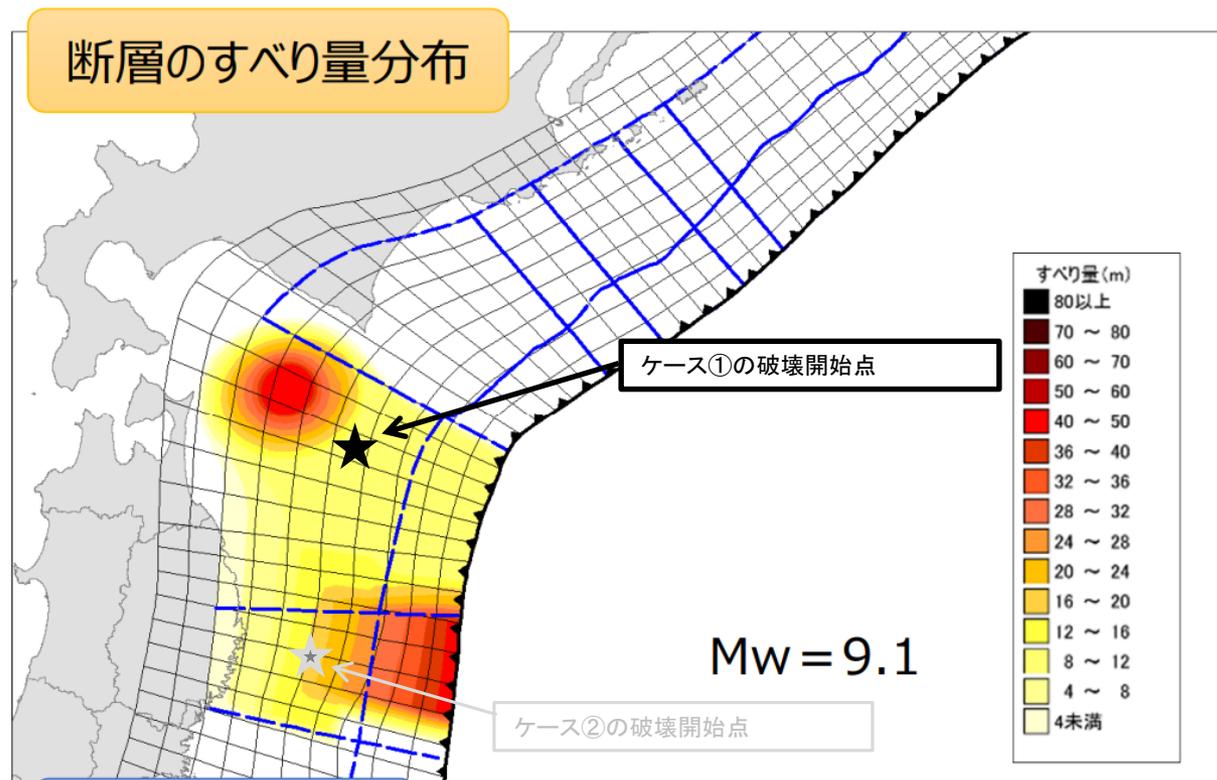
※地震発生日は平日としました。

※気象条件は平常時で風速8m/sとしました。

## 2.1.3 想定モデル

令和4年3月に公表した津波浸水想定モデルの中から以下の3つを選定しました。

- ・ 日本海溝(三陸・日高沖)モデル(2020 内閣府モデル)
- ・ 千島海溝(十勝・根室沖)モデル(2020 内閣府モデル)
- ・ 東北地方太平洋沖地震(2012 中央防災会議モデル)



a. 日本海溝(三陸・日高沖)地震モデル  
(内閣府(2020))

※ 本資料では、上記モデル中「日本海溝(三陸・日高沖)モデル(2020 内閣府モデル)」について説明します。

## 2.1.4 地震動の予測

日本海溝(三陸・日高沖)モデルでは、**多くの市町村で、震度6強、震度6弱**の揺れに見舞われます。

市町村	日本海溝 (三陸・日高 沖)モデル	千島海溝 (十勝・根室 沖)モデル	東北地方 太平洋沖地震
洋野町	6弱	5弱	5強
久慈市	6強	5弱	5強
野田村	6強	4	5強
普代村	6弱	4	6弱
田野畑村	6弱	4	6弱
岩泉町	6弱	4	5強
宮古市	6強	4	5強
山田町	6弱	3	5強
大槌町	6強	3	6強
釜石市	6弱	3	6強
大船渡市	6強	3	6弱
陸前高田市	6弱	3	6弱
盛岡市	5強	4	6弱
花巻市	6強	4	6弱
北上市	6弱	4	6強
遠野市	6弱	4	6弱
一関市	6強	4	6強

市町村	日本海溝 (三陸・日高 沖)モデル	千島海溝 (十勝・根室 沖)モデル	東北地方 太平洋沖地震
二戸市	6弱	4	5強
八幡平市	6弱	4	5強
奥州市	6強	4	6弱
雫石町	5強	4	5強
葛巻町	5強	4	5強
岩手町	5強	4	5強
滝沢市	5強	4	6弱
紫波町	6弱	4	5強
矢巾町	6弱	4	6弱
西和賀町	5強	4	5弱
金ヶ崎町	6弱	4	6弱
平泉町	6弱	4	6弱
住田町	5強	3	6弱
軽米町	6弱	4	5強
九戸村	6弱	4	5強
一戸町	6弱	4	5強

## 2.1.5 計算条件＜避難意識・避難開始時間・避難速度の条件設定＞

### (1) 避難意識

	避難行動別の比率		
	避難する		切迫避難あるいは避難しない (用事後避難)
	すぐに避難する (直後避難)	避難するが、すぐには避難しない (用事後避難)	
本県における東日本大震災津波時の実績	54%	40%	6%

※ 令和3年12月21日中央防災会議日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定項目及び手法の概要」(以下「国手法」という。)中、20頁「表 避難意識のパターン」欄外の「※7 東日本大震災の実績:岩手県(54%、40%、6%)」を適用

### (2) 避難開始時間(地震発生から避難を開始するまでの時間)

	直後避難	用事後避難
昼間	5分(冬季7分)	10分後(冬季12分後)
夜間	15分(冬季17分)	20分後(冬季22分後)

### (3) 避難速度

	冬季以外	冬季
昼間	2.24km/h※1	1.79km/h※2
夜間	1.79km/h※3	1.43km/h

【参考】年代別の平均歩行速度		
	男性	女性
20歳代	7.5km/h	6.9km/h
30歳代	7.2km/h	6.9km/h
40歳代	7.2km/h	6.6km/h
50歳代	6.9km/h	6.3km/h
60歳代	6.9km/h	6.0km/h

健康づくりのための運動指針2006(厚生労働省運動所要量・運動指針の策定検討会)を基に算定

※1 国手法中、21頁「表 徒歩による避難速度(設置値、昼間)」の「全体(東日本大震災時の平均徒歩避難速度)」を適用

※2 国手法中、21頁「積雪時の避難速度は、東日本大震災の平均避難速度から2割低下」を適用

※3 国手法中、21頁「夜間(暗い場合)の避難速度については、足元が見えにくい等の理由から昼間の8割に設定」を適用

## 2.1.6 被害想定計算結果

### 3.1 建物被害(全壊／県全体)

(単位:棟)

対象地震	想定ケース	津波	揺れ	火災	急傾斜地崩壊等	液状化	合計
日本海溝 (三陸・日高沖) モデル	冬・深夜	27,000	1,700	-	70	680	29,000
	夏・昼12時頃	27,000	600	-	70	680	29,000
	冬・夕18時頃	27,000	1,700	1,200	70	680	31,000

### 3.2 人的被害(死者数／県全体)

(単位:人)

対象地震	想定ケース	津波	建物倒壊	火災	急傾斜地崩壊等	合計
日本海溝 (三陸・日高沖) モデル	冬・深夜	6,700	110	*	10	6,800
	夏・昼12時頃	2,700	20	*	10	2,700
	冬・夕18時頃	7,000	*	40	*	7,100

### 3.3 その他被害(県全体)

対象地震	ライフライン被害(夏12時、発災直後)					避難者数 (冬18時、1日後)	直接経済被害額 <sup>※2</sup>
	上水道	下水道	電力	通信	都市ガス		
	断水人口	下水支障人口	停電影響人口	不通回線数	供給停止戸数		
日本海溝(三陸・日高沖)モデル	264,000人	189,000人	627,000人	248,000人	14,000戸	54,000人	27,000億円

※数値の表示方法:「-」は、該当無し(0)、「\*」は、わずかな被害(5未満)、「5以上1000未満」は、一の位を四捨五入、「1000以上1万未満」は、十の位を四捨五入、「1万以上」は百の位を四捨五入  
※四捨五入により、合計が合わない場合がある。

## 2.1.6 被害想定計算結果

### 3.1 建物被害(全壊／久慈市)

(単位:棟)

対象地震	想定ケース	津波	揺れ	火災	急傾斜地崩壊等	液状化	合計
日本海溝 (三陸・日高沖) モデル	冬・深夜	8,100	450	—	*	100	8,600
	夏・昼12時頃	8,200	140	—	*	100	8,400
	冬・夕18時頃	8,100	450	520	*	100	9,200

### 3.2 人的被害(死者数／久慈市)

(単位:人)

対象地震	想定ケース	津波	建物倒壊	火災	急傾斜地崩壊等	合計
日本海溝 (三陸・日高沖) モデル	冬・深夜	3,800	30	*	*	3,800
	夏・昼12時頃	1,500	*	*	*	1,500
	冬・夕18時頃	4,400	*	10	*	4,400

### 3.3 その他被害(久慈市)

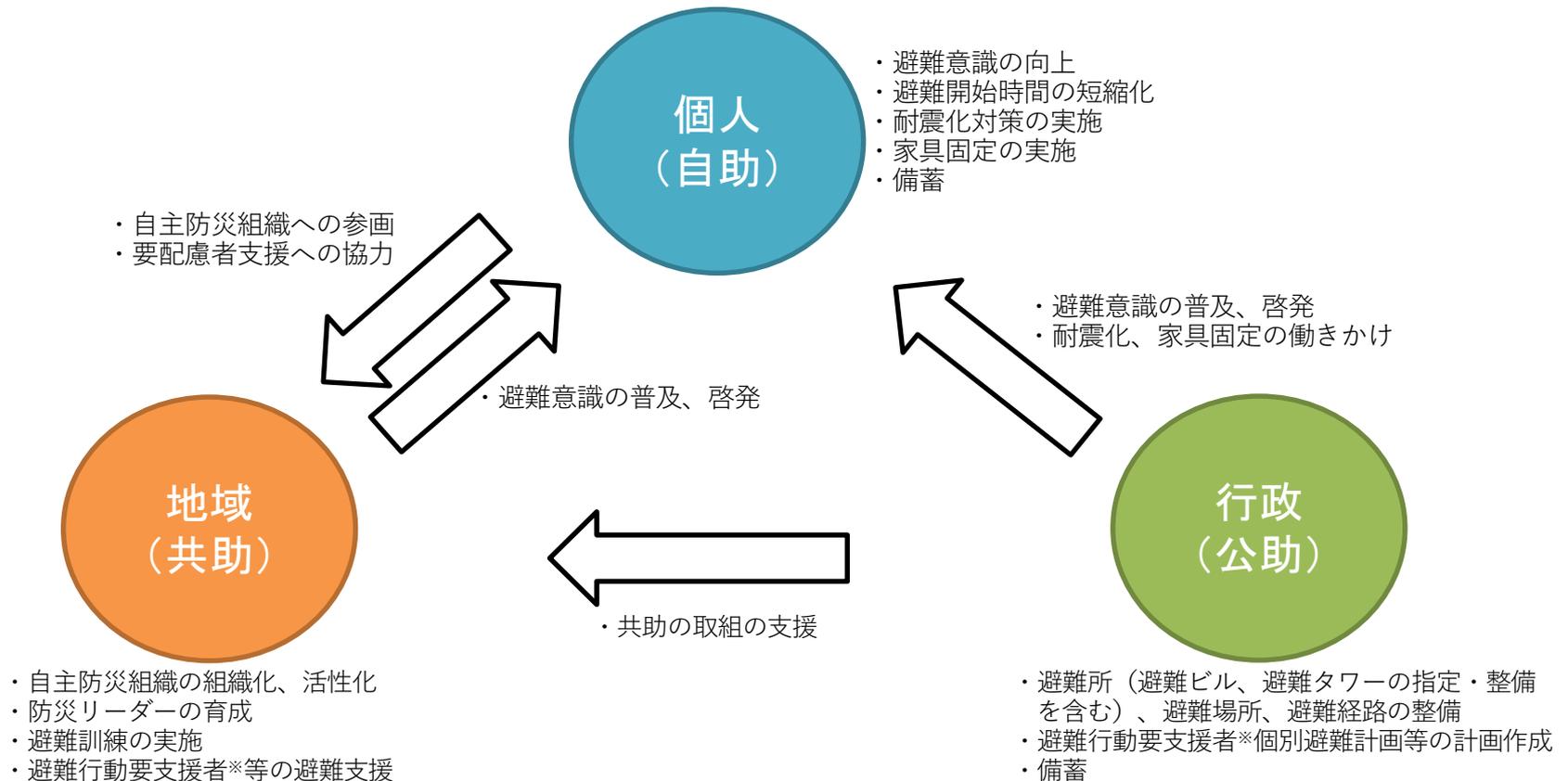
対象地震	ライフライン被害(夏12時、発災直後)					避難者数 (冬18時、1日後)	直接経済 被害額
	上水道	下水道	電力	通信	都市ガス		
	断水人口	下水支障人口	停電影響人口	不通回線数	供給停止戸数		
日本海溝(三陸・日高沖) モデル	25,000人	21,000人	30,000人	12,000人	—	17,000人	5,000億円

※数値の表示方法:「—」は、該当無し(0)、「\*」は、わずかな被害(5未満)、「5以上1000未満」は、一の位を四捨五入、「1000以上1万未満」は、十の位を四捨五入、「1万以上」は百の位を四捨五入  
※四捨五入により、合計が合わない場合がある。

## 2.2 減災対策の基本的方向性及び課題

### 2.2.1 減災対策の基本方針

自助の取組だけでなく、共助・公助の取組を組み合わせ、犠牲者ゼロを目指していく必要があります。

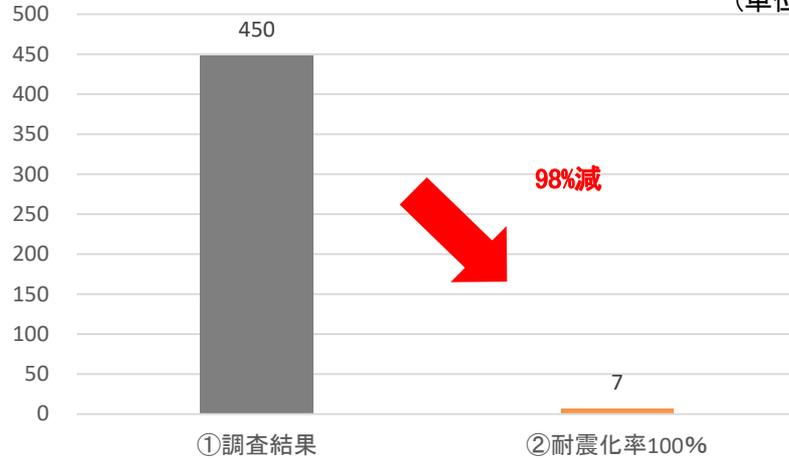


※避難行動要支援者:災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な者であつて、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要するもの(災害対策基本法第49条の10)

## 2.2.2 減災の取組により見込まれる効果① (日本海溝(三陸・日高沖)モデル(冬・深夜)・久慈市)

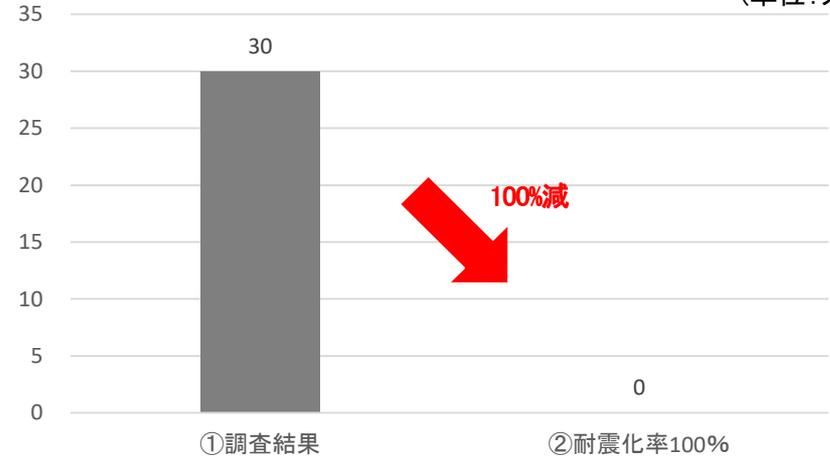
### 耐震化率100%による効果(建物被害)

(単位:棟)



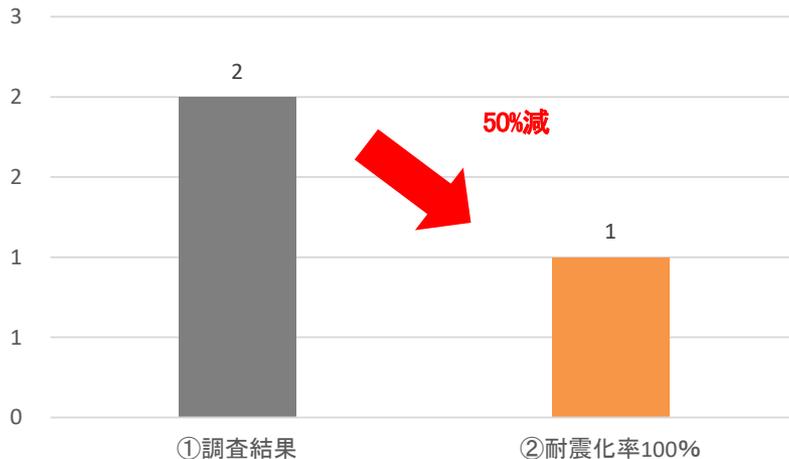
### 耐震化率100%による効果(人的被害)

(単位:人)



### 家具固定率100%による効果(人的被害)

(単位:人)



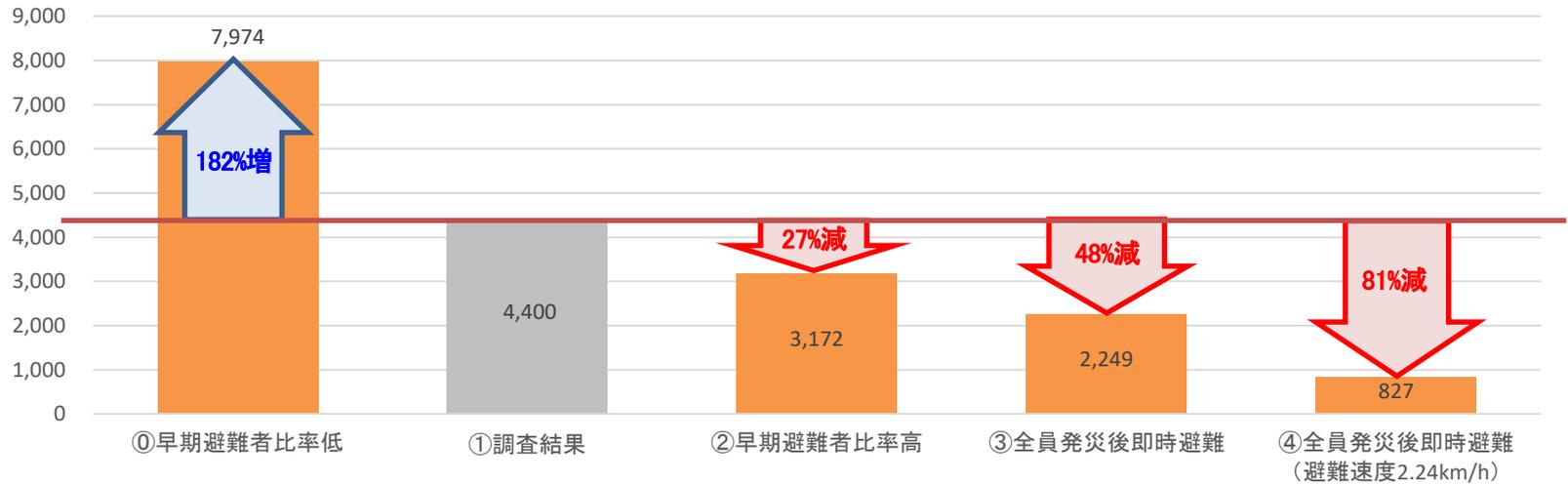
揺れによる**死傷者ゼロ**を目指すためには、**耐震化率と家具固定率を100%**にすることが必要です。

#### 【参考】

住宅・病院・学校等の耐震化：住宅の耐震化（83.3%（2019）→ 90.0%（2025））  
（岩手県国土強靱化地域計画(R3.3)）  
県民が家具などの転倒防止措置を行っている割合：41.7%  
令和2年県民生活基本調査結果報告書より

## 2.2.3 減災の取組により見込まれる効果② (日本海溝(三陸・日高沖)モデル(冬・深夜)・久慈市)

避難意識等の向上による効果算定結果:死者数(人)



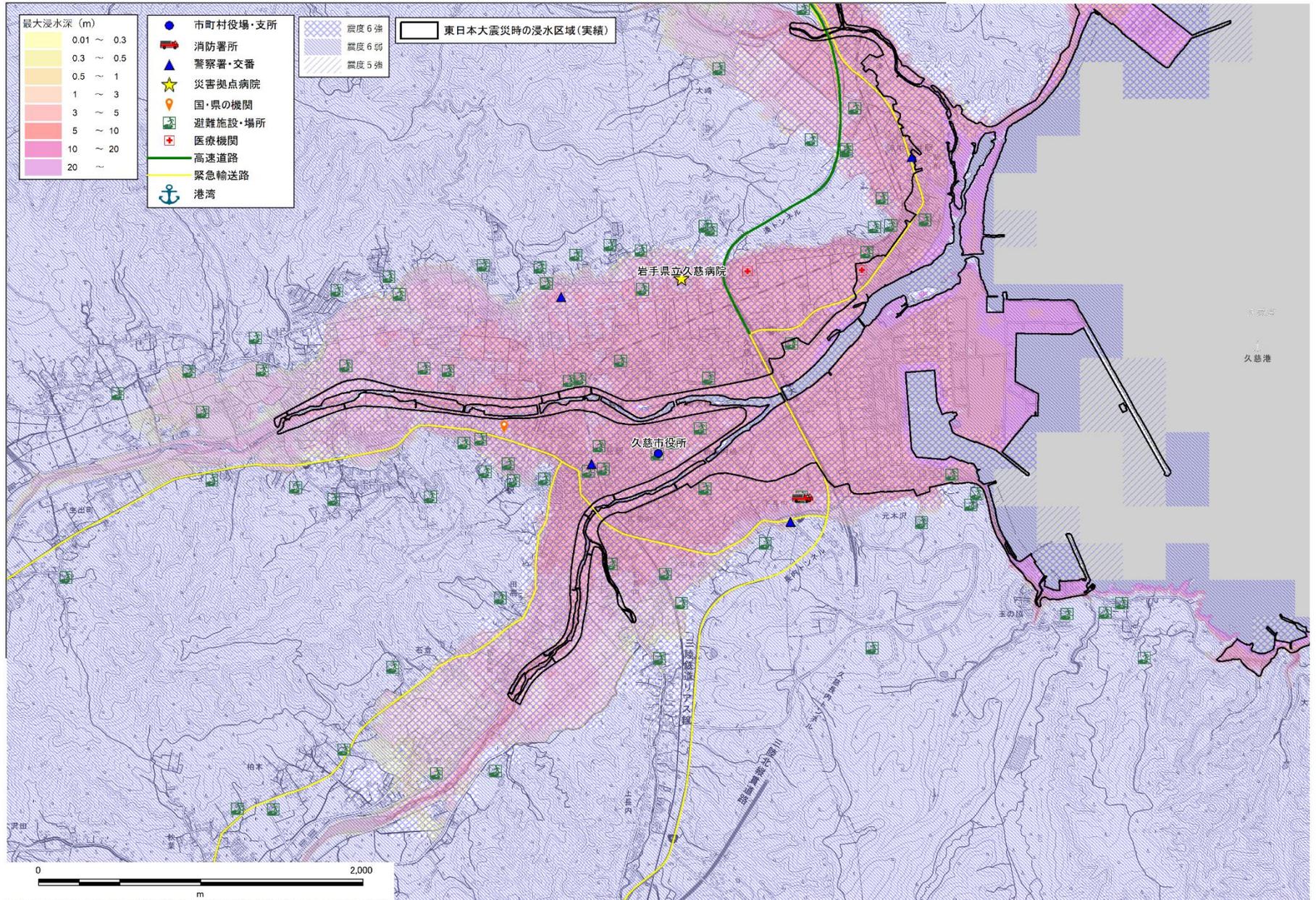
直ぐに避難する (直接避難)	20%	54%	70%	100%	100%
避難するが、直ぐに避難しない(用事後避難)	50%	40%	30%	0%	0%
切迫避難あるいは避難しない	30%	6%	0%	0%	0%

直ぐに避難する(直接非難)の割合が増えるほど、犠牲者は減少します。

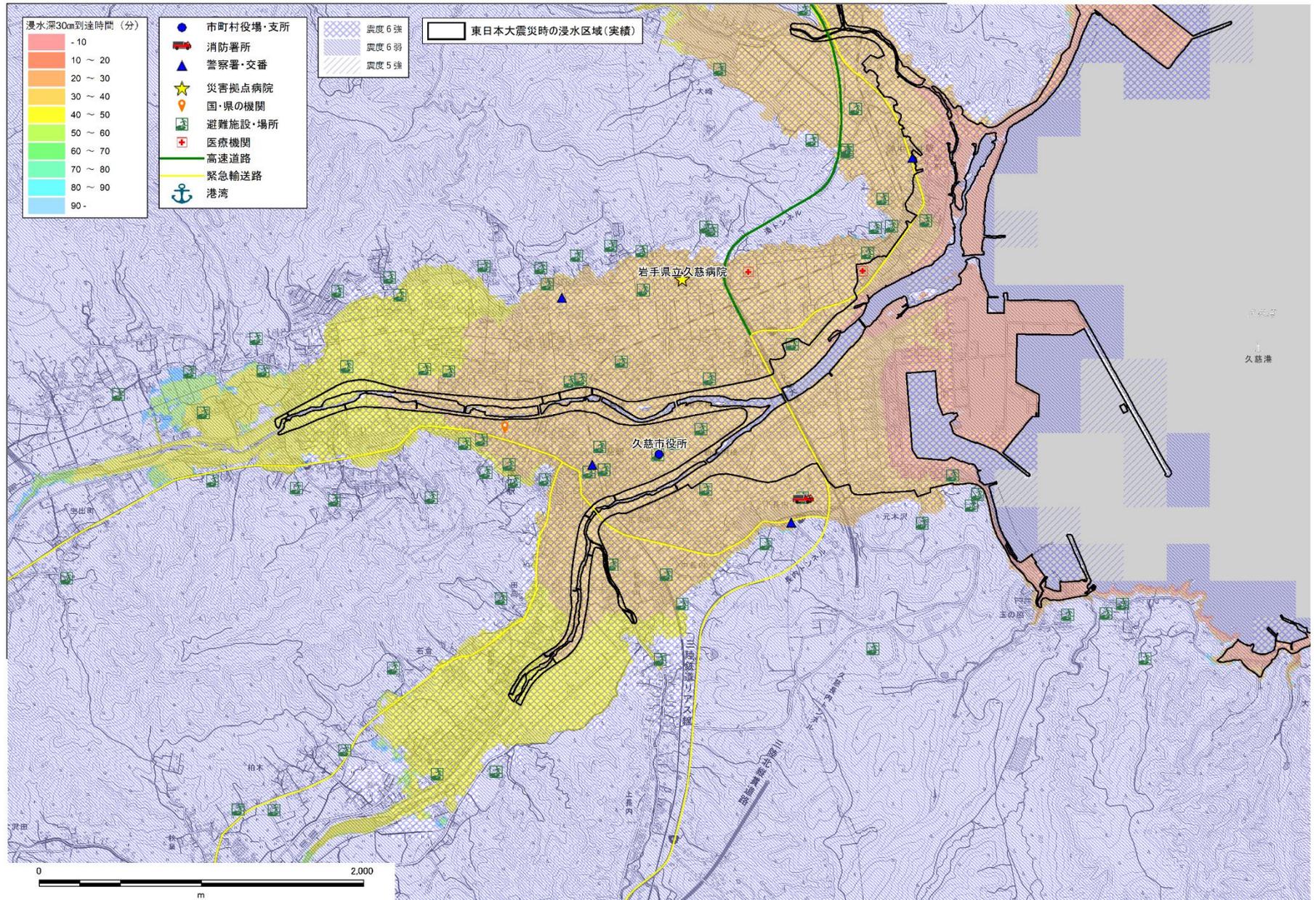


各自の避難意識を高め、迅速な避難の開始により、犠牲者を減らすことが出来る。

## 2.2.4 浸水深・震度分布と防災上の重要施設の重ね合わせ図



## 2.2.5 津波30cm到達時間・震度と防災上の重要施設の重ね合わせ図



## 2.3 犠牲者ゼロを目指して

本県は、これまでも、明治三陸大津波、昭和三陸大津波や、チリ地震津波、そして東日本大震災津波など、何度も大きな津波災害に見舞われてきましたが、決してくじけず、県民が一丸となって、これらの苦難を乗り越えてきました。

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震などの今後発生が危惧される地震・津波に対しても、再び津波による犠牲者を決して出さないという強い決意を県民や市町村としっかりと共有し、あらゆる主体と連携しながら、

**「何としても命を守る」ことを主眼とした津波防災対策に  
全力を挙げて取り組んでいきます。**

# 3. 地震・津波への備え

## 3.1 避難行動について考える

1. 自宅からの避難先だけでなく、日中の仕事場などからの避難先を確認しておきましょう。
2. 津波の犠牲とならないためには、行政や地域が実施する避難訓練に参加して日頃から、
  - ① 安全な場所（避難場所等）に避難するための時間を確認しておきましょう。
  - ② 避難経路の安全を確認しておきましょう。



# 3.1 大きな揺れが発生したら直ぐに逃げる

## 震度とゆれの状況

**0** **【震度0】**  
人は揺れを感じない。

**1** **【震度1】**  
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

**2** **【震度2】**  
屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。

**3** **【震度3】**  
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

**4** **【震度4】**

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

**6弱** **【震度6弱】**

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

耐震性が高い  耐震性が低い 

**5弱** **【震度5弱】**

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

**6強** **【震度6強】**

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い  耐震性が低い 

**5強** **【震度5強】**

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

**7** **【震度7】**

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

耐震性が高い  耐震性が低い 

市町村	日本海溝 (三陸・日高沖) モデル	千島海溝 (十勝・根室沖) モデル	東北地方 太平洋沖地震	市町村	日本海溝 (三陸・日高沖) モデル	千島海溝 (十勝・根室沖) モデル	東北地方 太平洋沖地震
洋野町	6弱	5弱	5強	二戸市	6弱	4	5強
久慈市	6強	5弱	5強	八幡平市	6弱	4	5強
野田村	6強	4	5強	奥州市	6強	4	6弱
普及村	6弱	4	6弱	磐石町	5強	4	5強
田野畑村	6弱	4	6弱	葛巻町	5強	4	5強
岩手町	6弱	4	5強	岩手町	5強	4	5強
宮古市	6強	4	5強	滝沢市	5強	4	6弱
山田町	6弱	3	5強	紫波町	6弱	4	5強
大槌町	6強	3	6強	矢巾町	6弱	4	6弱
釜石市	6弱	3	6強	西和賀町	5強	4	5弱
大船渡市	6強	3	6弱	金ケ崎町	6弱	4	6弱
陸前高田市	6弱	3	6弱	平泉町	6弱	4	6弱
盛岡市	5強	4	6弱	住田町	5強	3	6弱
花巻市	6強	4	6弱	軽米町	6弱	4	5強
北上市	6弱	4	6強	九戸村	6弱	4	5強
遠野市	6弱	4	6弱	一戸町	6弱	4	5強
一関市	6強	4	6強				

今回の被害想定調査では、**ほとんどの自治体で震度6弱**又は**震度6強**が発生すると見込まれる。



**立っていることが困難なほどの地震**が発生した場合には、**巨大な津波**が襲ってくる可能性が高い。

この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。

詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。

気象庁震度階級関連解説表 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

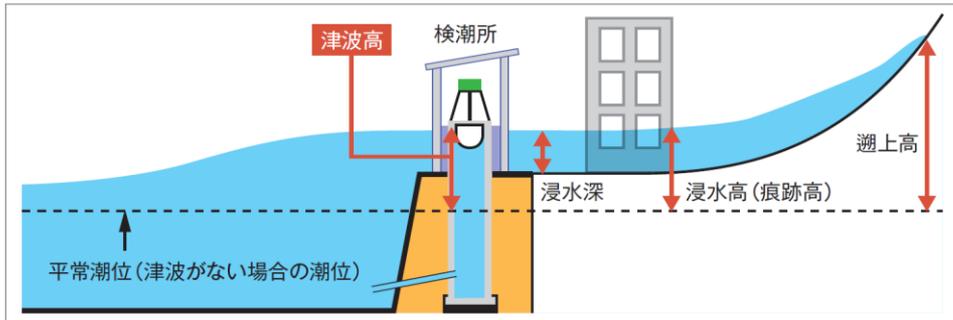
※気象庁HP「震度について」より

# 3.2 津波警報・注意報と避難のポイント①

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (予想される津波の高さ区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで3mを超える場合。	<b>10m超</b> (10m<予想される津波の最大波の高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 <u>沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。</u>
		<b>10m</b> (5m<予想される津波の最大波の高さ≤10m)		
		<b>5m</b> (3m<予想される津波の最大波の高さ≤5m)		
津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	<b>3m</b> (1m<予想される津波の最大波の高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 <u>沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。</u>
津波注意報	予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	<b>1m</b> (0.2m≤予想される津波の最大波の高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

住民に避難を求める警報

※気象庁HP「津波警報・注意報、津波情報、津波予報について」より



(気象庁ホームページを参照して作図)

**最大クラスの津波 (L2 津波)** (数百年から千年に一度程度の頻度で到達する津波)

**津波レベル :** 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波  
住民等の生命を守ることを最優先とし、住民の避難を軸に、とりうる手段を尽くした総合的な津波対策を確立

**基本的な考え方 :** 被害の最小化を主眼とする「減災」の考え方に基づき、対策を講ずることが重要である。そのため、海岸保全施設等のハード対策によって津波による被害をできるだけ軽減するとともに、それを超える津波に対しては、ハザードマップの整備など、避難することを中心とするソフト対策を重視しなければならない。

**比較的頻度の高い津波 (L1 津波)** (数十年から百数十年に一度程度の頻度で到達する津波)

**津波レベル :** 発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波  
住民財産の保護、地域経済の安定化、効率的な生産拠点の確保の観点から、海岸保全施設等を整備

**基本的な考え方 :** 海岸保全施設等については、引き続き、発生頻度の高い一定程度の津波高に対して整備を進めるとともに、設計対象の津波高を超えた場合でも、施設の効果粘り強く発揮できるような構造物の技術開発を進め、整備していく。

中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」報告(平成23年9月28日)より作成

## 3.2 津波警報・注意報と避難のポイント②

- 震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。**強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
- 津波の高さを「**巨大**」と予想する**大津波警報**が発表された場合は、**東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。**直ちにできる限りの避難をしましょう。
- 津波は沿岸の地形等の影響により、**局所的に予想より高くなる場合があります。**ここなら安心と思わず、**より高い場所を目指して避難**しましょう。
- 津波は**長い時間くり返し襲ってきます。**津波警報・注意報が解除されるまでは、**避難を続け**ましょう。

※気象庁HP「津波警報・注意報、津波情報、津波予報について」より

## 3.3 後発地震注意情報について

- 過去に日本海溝・千島海溝沿いにおいて、マグニチュード7クラスの地震が発生した後、数日程度の短い期間において、さらに大きなマグニチュード8クラス以上の大規模な地震が続いて発生する事例を確認。

(事例1) 平成23年東北地方太平洋沖地震  
(H23.3.9マグニチュード7.3  
→H23.3.11マグニチュード9.0)

(事例2) 昭和38年択捉島南東沖地震  
(S38.10.12マグニチュード7.0  
→S38.10.13マグニチュード8.5)

### < 情報発表時に取るべき防災行動 >

- 平時からの地震の備えを徹底した上で、「北海道・三陸沖地震注意情報」が発信された際には、地震への備えを再確認する。
- 揺れを感じたり津波警報等が発表されたりした際に、直ちに避難できる準備等を徹底する。

### < 情報が発表される条件 >

- 北海道の太平洋沖から東北地方の三陸沖の巨大地震の想定震源域及びその領域に影響を与える外側のエリアでマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合

**北海道・三陸沖**  
**地震・津波に備えを!**

マグニチュード **M7.0** 以上の大地震が起きたら…

**続いて発生する巨大地震の可能性! 情報で備えを**

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」2022年12月運用開始

※情報が発信されたとしても、必ず巨大地震が発生するとは限りません。

**すぐに避難できる態勢の準備を!**

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

- 1. すぐに逃げ出せる態勢での就寝 (枕元に靴等を置いて寝る)
- 2. 非常持出品の常時携帯 (リュックやバッグに常時携帯)
- 3. 緊急情報の取得体制の確保 (インターネット、ラジオ)
- 4. 想定されるリスクから身の安全の確保 (倒れやすいものを片付け、窓ガラスの破損防止)
- 5. 日頃からの備えの再確認 (食料・飲料、寝具、現金、防災用品)

内閣府(防災担当)・気象庁 詳しくはこちら

# 4. おわりに

今後、県は下記を含めた減災対策の検討を市町村と一体となって行っていきます。

- ・ 行政機関等が作成した東日本大震災津波に関する検証報告書を踏まえた減災対策
- ・ 東日本大震災津波で本県では6,254人の人が犠牲となった要因を踏まえた減災対策

【本資料に係るお問い合わせ】

岩手県復興防災部防災課

TEL 019-629-5155

E-mail [aj0009@pref.iwate.jp](mailto:aj0009@pref.iwate.jp)